

第2回夜間中学設置検討会議議事録

(曾根原 好彦 教育次長)

ご多用の中ご参加いただきありがとうございます。

また日頃より本県の教育に対しまして、ご支援ご協力いただいておりますことに心より感謝申し上げます。

本日はご検討いただく夜間中学は、年齢、性別、国籍、障害の有無、家庭環境などに関わらず、誰もが等しく、そしてその存在という役割を認められ、自分らしく生きることができる社会を実現するために、設置を検討しているものでございます。

夜間中学は、戦後の混乱期の中で、義務教育を修了できなかった人や、様々な理由から本国で義務教育を終了せずに、日本で生活を始めることになった。外国籍の方など、多様な背景を持った人たちが学ぶ場です。最近では不登校などの理由で十分に通うこともできなかった方々の学び直しとしての役割も期待されております。

このような観点からも、どのような形の学校が良いのか考える必要があると思っております。

本日は、事務局よりニーズ調査結果が示されますが、多様な学びの場、機会の充実により夜間中学を必要としている方々にとって、未来への希望が膨らむ学校となりますよう、皆様のご経験から建設的なご意見をいただけたら幸いです。本日はよろしく願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。

続いて、本日の協議内容について説明をさせていただきます。まず初めに、県外視察報告をさせていただきます。2番目として、夜間中学に係る長野県の現状について、3番目として、ニーズ調査結果の報告について、4番目として、ニーズ調査の分析と長野県の現状から整理をさせていただきたいと思っております。5番目として、夜間中学設置に係る基本的な考え方について、長野県における夜間中学の理想像についてご協議いただければと思っております。6番目として、設置に向けた市町村への意向調査について、最後7番目として、今後の課題について、以上2時間という時間ではありますが、ご協議をいただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

続いて本日の日程であります。会議の終了は12時を予定しております。スムーズな進行にご協力をお願いいたします。それではこの後の協議の進行を荒井座長にお譲りします。よろしくお願いいたします。

(荒井座長)

信州大学の荒井でございます。よろしくお願いいたします。本日は協議項目が多いですが、発言いただく際は挙手ボタン、リアクションのボタンを押してください。それでは協議事項の一つ目、県外視察について事務局の方からお願いいたします。

(事務局)

それではよろしくお願いたします。事前に送付いたしました資料をお手元にご用意ください。同じ資料になりますが画面共有をしながら説明をいたします。なお資料の最後に夜間中学に関わる国の支援メニューに関する資料を載せてあります。参考にしてください。

初めに夜間中学県外視察の報告であります。時間がございませんのでかつまんで説明をさせていただきます。

6月に2校の視察をしてまいりました。昨年度開校となった学びの多様化、いわゆる統合特例校を併設している高瀬中、戦後の混乱期に開校した歴史ある夜間中学、荒川区立第九中についてです。

まず、香川県三豊市立高瀬中学校夜間学級について報告をさせていただきます。高瀬中学校夜間学級は、令和2年、「市内夜間中学に対するニーズが1人でもあるのであれば、夜間中学を設置する」という市長の強い意志により設置検討を開始し、令和4年度開校した新しい夜間中学です。

既存の三豊市立高瀬中学校の空き教室を利用する形の夜間中学であります。学びの多様化学校を併設しており、18名の生徒のうち、学齢期の生徒が2名在籍。外国籍の生徒は2名だけで、他の夜間中学と比較すると、外国籍の生徒が少ないことが特徴の夜間中学です。異年齢、異国籍の方々が関わり合いながら笑顔で体を動かしている姿が大変印象的でした。特に同年代の子供と関わることを苦手としている学齢期の女子生徒が、年の離れたおじいさん、おばあさんに可愛がられていて、とても良い表情で関わっている姿が微笑ましかったです。

次に職員についてです。県費職員は15名であります。内訳ですが、校長は昼間の中学校との兼務です。教頭は夜間中学校が本務で1名。常勤が5名、非常勤職員が6名、養護教諭が再任用ハーフで1名、事務職員も再任用で1名、その他スクールカウンセラー1名が県費、日本語指導員が県費で1名、スクールソーシャルワーカー1名、通訳1名、この2名は市費での任用であります。

次に給食についてです。希望者が実費でお弁当を注文する形となっており、2校時と3校時の間に、20分間補食の時間が設定されています。

入学資格であります。学齢期の生徒につきましては、事前相談、面談、1ヶ月以上体験入学、またさらに面談を経て、入学、転入ということになります。さらに、学齢期の生徒の登下校につきましては、保護者の送迎が原則です。

入学対象者であります。原則、三豊市内に住所がある方となっておりますが、実際は三豊市以外に住所がある方もたくさん通っているようであります。その際は提携書(覚書)の手続きを市町村同士で済ませるということでした。

次に、東京都荒川区立第九中学校の視察について報告をいたします。第九中学は昭和32年、地域の工場労働者の中に、夜間中学に対するニーズが高まったことから設置をされた伝統ある夜間中学校です。こちらも第九中学校の空き教室を活用する形の夜間学級です。

第九中学校夜間学級は、外国籍の生徒がほとんどでした。26名の生徒のうち23名が外国籍。さらに、15名がネパール国籍の方ということです。写真は、日本語をまだほとんど理解できていない外国籍の生徒に対して、日本語習得を目的とした授業です。

「日本語を話せるようになりたい」「日本で夢を叶えたい」そんな思いで、身を乗り出し、熱心に授業に取り組んでいる生徒の姿がとても印象的でした。実際には日本語の習熟度が様々であることから、1年生から3年生の学年を日本語の習熟度別に、AからEの五つの学級に再編成し、授業を行っているということでした。通訳等の日本語スタッフが配置されていないことから、卒業生が通訳ボランティアとして協力してくださっているとのことでした。日本語がある程度理解できるようになったところで、教科の授業に参加します。これは家庭科の授業の様子です。

生徒会も組織されています。また、夜間中学連合体育大会や、生徒会連合交流会、修学旅行、遠足等の行事も企画されているそうでもあります。夜間中学での学校生活を通して、リーダーシップや社会性が育まれ、先ほどもお話ししましたが、卒業後は、通訳のボランティアを買って出る生徒たちもいるそうです。次に職員についてです。教職員は27名、内訳ですが校長は昼間の学校の兼務、副校長は本務で1名。常勤が7名、常勤教職員が10人、ここまでが都費での運用であります。養護教諭2名は、都費と区費で折半、栄養士は区費、学校用務員3名も区費での任用という事です。

給食についてです。第九中学校では自校式の給食で、夜間中学の生徒に対しても全て自校式、そして区が全て負担しているということでした。宗教上の関係もあり、牛と豚の肉は一切してないそうです。夜間中学専属の栄養士と調理員が配置されており、給食の時間は30分確保されていました。

入学資格についてです。中学校や小学校を卒業していない方、中学校卒業しているが休が多かった方、15歳以上の方、東京都に住んでいる方。東京都で仕事をしている方となっており、学齢期の受け入れは行っていません。荒川区以外からの受け入れにつきましては、都内の他の各夜間学級と連携し、生徒にとってよりよい学習環境を作る立場でお互いに受け入れをしているそうです。詳細につきましては、後半の資料に載せさせていただいておりますので、ご覧ください。視察の報告は以上でございます。

(荒井座長)

ありがとうございました。では、視察報告についてご質問等がありますか。よろしいでしょうか。

では(2)に移らせていただきます。長野県の現状ということで関連データの紹介をさせていただきます。事務局からお願いします。

(事務局)

はじめに夜間中学に関わる長野県の現状についてお話をさせていただきます。以前に掲示した資料もありますが、一旦整理をさせていただきます。よろしく申し上げます。

まず、未就学者と最終卒業学校が小学校の方の数です。2020年の国勢調査によりますと、県内の未就学のまま学歴期を超過した方は、1336人いることが分かっています。下の表をご覧ください。この表は、長野県内における最終卒業学校の方が小学校の方の人数です。合計で1万7150名、つまり義務教育を修了していない方は合わせて1万8500人近くいることとなります。これらの方は、夜間中学入学対象者となり得る方々です。また、その中で、産年齢人口にあたる方、この黄色く塗りつぶした部分になりますが、この人口が500人以上存在することもわかっています。

次です。これは長野県人口の推移と、県内に在住する外国人の方の推移です。ご覧いただければわかるように、長野県全体の人口が年々減少する一方で、外国人の数が年々増加していることが分かります。そして、ここ5年間では、5000人以上、外国人の方が増加してきています。コロナ禍で停滞していた外国人の県内への流入が、2023年一気に増加していることも考え合わせると、今後ますます、増えていくことが予想されます。

これは県内小中高等学校の不登校に関するグラフです。棒グラフがその実数、折れ線グラフが1000人あたりの不登校数の推移です。ご存知の通り、児童生徒数は年々減少傾向にあります。一方、不登校児童生徒の数は増加傾向という状況にあります。今年度は、長野県も全国同様、過去最多という発表がありました。こうした状況を受けますと、十分な教育を受けないまま、中学校形式的に卒業する生徒の数も増加する傾向にあるのではないかと考えます。このような生徒の受け皿として、今後夜間中学の必要性がますます増している状況にあると言えます。ここまで簡単に夜間中学の入学対象となる方の中の長野県の現状について説明をさせていただきました。ご質問、ご意見がありましたらお願いします。

(荒井座長)

はい、ありがとうございます。今、三つのデータを紹介させていただきましたが、ご質問等ありますでしょうか。続きまして、ニーズ調査について事務局から説明をお願いします。

(事務局)

それではニーズ調査の結果についてご報告をさせていただきます。7月から9月にかけてニーズ調査を行いました。まずはアンケートの項目についてです。前回の会議の中でいただいたご意見をもとに、修正をさせていただいています。大きな修正は、現在の児童生徒についても回答できるアンケートにしたという部分です。

まず当事者アンケートについてです。夜間中学の認知について、入学の意向、年代、居住地、国籍について、夜間中学に通いたいと考えた理由について、可能な通学時間、通学方法について、最終学歴について、現在の状況について、自由記述であります。

続いて、保護者・支援者など夜間中学を利用するとよい方の周りにいらっしゃる方へのアンケートです。夜間中学の事を知らせたいという人が周りにいるか。その方との関係、知らせたい理由知らせたい方の人数です。夜間中学を知らせたい方の居住地について、回答者の職業、夜間中学に対する自由記述です。

ここからは、調査委託業者の分析をもとに説明をさせていただきます。なお、共有させていただいているこの資料とは別に、委託業者の調査分析の資料を昨日送付させていただきました。今回その一部を抜粋させていただきます。よろしくをお願いします。

はじめに回答数について整理をさせていただきます。まず、当事者が回答した結果についてです。回答数62名、うち夜間中学に通ってみたいと回答した方は61名でした。次に支援者の方の回答です。支援者の回答件数は86件、支援者の方が夜間中学について知らせたい方の人数は総計396名でした。支援者1人当たりが回答した知らせたい人の数はおよそ4.6人でありました。

続いて、当事者の回答の詳細について説明します。まず、当事者の国籍と年齢です。日本国籍の方のニーズが何か全体の約3分の2でした。その中で30代、40代のニーズが高く見られました。ですが、どの年代にもある程度人数のニーズが確認できています。一方で戦後の混乱期に、義務教育を受けることができなかった層のニーズはさほど多くは確認できませんでした。外国籍の方のニーズは全体の約3分の1、ブラジルの方が多く、これも40代、50代のニーズが多く見られました。

次に当事者の地域別のニーズです。4ブロックどの地域にも一定のニーズが認められました。

学齢期は各地域、1、2名と多くはありませんが、当事者として回答していることを重く受け止める必要があるのではないかと考えます。

続いて、当事者の市町村別のニーズであります。まず北信地域です。長野市を中心にニーズの確認ができました。須坂市、千曲市、中野市にもあります。次に東信地域です。上田市を中心にニーズが確認できます。続いて中信地域です。こちらは松本市を中心にニーズが見られました。南信ブロックです。南信では、多くの市町村に分散したニーズが上がってきました。多くの市町村に少数でありますけれども、ニーズがあります。

続いて、当事者が回答した夜間中学に通ってみたい理由についてです。先ほども話しましたが、戦後の混乱期に様々な事情により中学に使うことができなかった方のニーズはあまり確認できませんでした。中学卒業したものの、何らかの理由でほとんど中学に通えなかった方が最も多く40%、外国籍、または外国に由来する方で、日本の中学にあたる教育を十分に受けていない方が17%になっています。ちなみにですが、この中に当てはまるものはない方という数字が多いのですが、こちらの中には、無回答の方も含まれておりますのでご承知ください。

続いて夜間中学に通ってみたい理由についてです。様々なニーズが確認できましたが、学び直しのニーズが最も多く、次に日本の中学を卒業したい。仕事のために学びたいというニーズが続きました。続いて地域別の通ってみたい理由についてです。やはり学び直しのニーズが各地で多く見られました。東信には、日本の中学を卒業したいと回答した方が多く見られています。

次に入学したい理由についてです。中学校を卒業したものの、何らかの理由により、ほとんど学校に通うことができなかった方のニーズが各地域で多く見られました。先ほど説明いたしましたが、この中に当てはまるものがないという回答の中には、無回答の方も含めています。

続いて市町村別の通ってみたい理由についてです。長野市では学び直し、仕事のために学びたいというニーズが多く見られました。松本市では様々なニーズが確認できました。上田市では、日本の中学を卒業したいというニーズが最も多く、学び直しのニーズが続いています。他の市町村と比べて外国由来のニーズが高いと考えます。南信ブロックは、お1人お1人が複数の理由をお答えになっており、夜間中学に対する期待が感じられます。

続いて当事者アンケートの年齢別、地域別の結果です。どの地域も30代以降のニーズが多く確認できます。通学時間と方法についてです。車での通学を希望する方が多く、通学時間につきましては30分以内と回答された方が60%以上、1時間以内と回答された方が約90%です。

最終学歴についてです。日本では学校に通っていない40代の方が最も多くみられました。最終学歴が、小学校、中学校という方も相当数確認できました。続いて、最終学歴から、夜間中学入学要件を満たさないと考えられる方の数です。大学、専門学校等の卒業と回答した方を抽出しました。

続いて、通ってみたい理由を、年齢別に整理したものです。現在不登校の学齢期の生徒においては、高校進学を見据えるなど、将来への転換点としての夜間中学に対する期待もうかがえます。学齢経過者の16歳以上においては、様々な理由をお持ちであるものの、31歳以降では、学び直しのニーズが高い傾向にあります。

続いて当事者の自由記述です。共有画面が不明瞭で申し訳ありません。ニーズ調査結果報告書12ページ、13ページに、同じものがありますので、参考にしてください。24歳までは外国人籍が多く、日本語を学ぶ、中学の学び直しの需要が見られます。39歳までの層は何らかの理由で不登校になったことから学び直しをしたいニーズが見られ、仕事など、これからの生活に活かすための手法として夜間中学を希望している傾向があります。「ぜひ通いたい」「学ぶ機会を考えてもらえて嬉しい」等、夜間中学を強く望んでいることが文面からうかがえます。40代の記述では自身の障害が要因で満足な学習ができなかった発言が見られました。ある程度時間が経ち、新たにスタートを切るきっかけとして夜間中学を検討しているというニーズもうかがえます。50代では、一般常識を学び直して恥ずかしい思いをしたくないという思い。60歳以上では後悔しない生き方をしたい等、人生を踏まえた学び直しを検討しているニーズが見られます。

続いては、保護者・支援者のアンケート結果です。まず、夜間中学のことを知らせたいと思う人が自分の周りになると、回答した方の数です。北信が13件、東信が40件、中信が20件、南信が13件でした。東信が約半数を占めています。

続いて、支援者の方が、夜間中学について知らせたい理由についてです。中学校を卒業したが、不登校や家庭の事情で中学にあまり通えていないとの回答が最も多く、続いて、外国籍または外国に由来することが理由の回答でありました。現在不登校等の回答も、全体の約15%ありました。

続いて、支援者の方が、夜間中学について知らせたい理由についてです。中学校を卒業したが、不登校や家庭の事情で中学にあまり通えていないとの回答が最も多く、続いて、外国籍または外国に由来することが理由の回答でありました。現在不登校等の回答も、全体の約15%ありました。

続いて、市町村別の夜間中学のことを知らせたい人の数です。北信では、最も多いのが長野市で11名、うち3名が学齢期現在不登校の人数、千曲市は9名うち8名が学齢期現在不登校の人数、中野市が9名でした。東信では、上田市が最も多く132名、うち6名が学齢期現在不登校の人数、これは、全県でも最も多い数となっております。中信では、松本市が最も多く102名うち26名が学齢期現在不登校の人数、全県で2番目に多い数となっております。南信では、箕輪町が最も多く39名です。そのうちの30名が学齢期の不登校生の数になります。伊那市、飯田市にも一定のニーズがみられました。

支援者の自由記述についてです。共有画面の文字が不明瞭で申し訳ありません。ニーズ調査結果報告書の23～25ページに同じものがありますので、参考にしてください。大きく分けると、1つ目が「外国籍、外国由来の方の学びの場としての期待」、2つ目が「不登校支援者や保護者からの期待」、3つ目が「県内に複数の夜間中学を作ってほしいという希望」が多く見られました。また、「文字を読めない、書

けない方は、返事すらすることができない。」という記述もあり、今回の調査だけでは、特に、外国籍や外国由来の方のニーズは、十分に掘り起こせていないのではないかと感じました。詳細については読み上げませんが、夜間中学に対する期待の声がうかがえます。これらの多くの方々の期待に応えられる夜間中の設置を進めていくことの必要性を改めて感じさせていただきました。

総括です。今回の調査では北信、東信、中信では主に人口比率の高い都市、長野市、上田市、松本市が多い傾向にありながら、南信では地域ごとにニーズが見られました。南信では各地域にニーズを抱えている当事者が分散していることが見受けられます。外国人ニーズでは東信にやや多く見ることができました。通ってみたいニーズも上田市で特に多く、夜間中学を求める外国人の声が大きいことがうかがえます。支援者のニーズは東信に特に多く見られ、夜間中学を知りたい人数も多く、当事者の調査と比較してもニーズが高い地域と考えられます。当事者、支援者からの声では都市圏など主要地域のみでの設置ではなく、できるだけ広域に設置して欲しいとの意見が見られました。特に南信では市町村ごとにニーズが分散しており、夜間中学を求める声が広範囲に見られました。ニーズ調査の結果報告は以上です。

(荒井座長)

ありがとうございました。今回は、「当事者を対象とした調査」と「支援者・保護者を対象とした調査」の2種類の調査を行いました。保護者や支援者の方の調査は、共に活動をされている方が同じ方をイメージされて回答している可能性もありますので、重複している可能性がある点をご承知おきください。ただ、具体的な制度設計がまだなされていないのにも関わらず、夜間中学というアイデアに対して、60名以上の当事者の方が行ってみたいと思っているという結果は、メッセージとしてとても重い結果となっています。また、62名のうちの3分の2が、現状では日本国籍の方という点も特徴的な部分です。さらに、地区ごとの結果を見ましても、全ての地区に当事者の回答が一定数あるという点も重要です。

それでは委員の皆様から、今ニーズ調査の結果の受け止めなどをお聞きします。長野市の丸山教育長から、いかがでしょうか。

(長野市 丸山教育長)

はいお世話になっております。今アンケート調査拝見させていただきました、やっぱりこれだけの方が、夜間中学で学習したいとか勉強したいという方がいるんだということを改めて強く感じたところです。ご本人が今60何名ということだったのですが、支援者の方の数字が長野市が何でこんなに少ないんだろうと思ひまして、人口から言っても、もうちょっといらしてもいいんじゃないかと思ひますけども、やっぱりそういった点では上田さん松本さんの方の支援の一つのかなというような感じもしますし、わからなかったところということでもあります。今ご本人さんが今60何名ということなんですけども、支援者の方々の把握の数字も今回アンケートにお答えになってない方も結構いらっしゃるんじゃないかと思ひますので、そういった数も大いに知らすべき点なのかなと思ひます。それとアンケートとは関係ないのですが、先ほどご視察いただいた二つの学校なんですけど、どういうことで選定されたのかというこ

とと、柳林先生が高知にいらっしゃいますが、高知は県でやられてますよね。県立の夜間中学数は少ないんですけどもご視察はされないでしょうか。以上です。

(荒井座長)

はい。ありがとうございました。ご質問いただいたことについて、事務局から回答をお願いします。

(事務局)

それではよろしく申し上げます。県外視察についてですが、まず一つ目、2校を選んだ理由についてです。学びの多様化学校との併設の学校がどのように行われているかということで、一つめ高瀬中学を視察させていただきました。もう一つ、荒川区の第九中学については、外国籍の方が多いということがわかっていましたので、外国籍が多くいる中で授業がどのように運営されているのかということ視察させていただきました。続いて県立の視察についてですけども、実は直近県立の視察も行かせていただいているのですが、今回の視察報告に間に合わず申し訳ありませんでした。先日、静岡県のおふじのくに中学に視察をさせていただきました。遠隔教育を行っている学校でありましたので、どのように行われているのかについて視察させていただきました。以上であります。

(荒井座長)

はい、ありがとうございました。

ちなみに丸山教育長からご発言いただいた支援者アンケートが長野市で回答が少ないという点と関わって、逆に上田市の場合は、支援者アンケートを実施するにあたって相当、行政や関係者の方から支援者の皆様に積極的に回答依頼の連絡をしていただいたという背景があるようです。また上田市さんの方から後ほど補足説明をお願いします。続きまして松本市の伊佐治教育長をお願いします。

(松本市伊佐治教育長)

はい。よろしくお願ひいたします。調査の結果を見て、感じたことは、先ほど当事者の中信地区の通ってみたい理由というところで、そのニーズに偏りが無いということで、確かにグラフを見ますとそのようなことが読み取れると思ひました。これは松本市としてどう判断していくかというときに、どういうところに多いのかというボリュームゾーンはどこにあるのかというところが、ちょっと把握できないと、考へていくことが難しい案件だなということを感じております。それと全体的に松本市としても回答いただく努力が少し足りなかったのか、この回答書では、これから例えば松本市で市費をある程度投入して、このことを取り組んでいくとき、市民とか議会に負担を説明する際、これだけでは判断できないので、全て先ほどのニーズがどこにあるかというところをもう少しわかればと思ひたんですが、ここは難しいなということを感じました。

最初に視察の対象になった、その選定の理由のところでご説明があつたのですが、外国人の方、外国籍の方のニーズが多いのか、それとも個別の回答を見ていくと、やはり圧倒的に不登校で通えていない、それ

から不登校でよく学ぶことができなかつたので学び直しをしたいという方の声がとても多かったように思うのですけれども、どちらに焦点を当てていくのかというところが、夜間中学といった場合には、皆さん捉え方が曖昧のままであるので、絞り方が難しいと思うんですね。ただ、これからの方向性としては、どちらも包括的に支援をしていくということは、やはり投資をしていく上では必要な方向性なのかなということも改めて今回の調査を見て感じました。この点では松本市のとても興味があるのは、この視察をいただいた見通しですとか、学びの多様化学校との併設、というところでどんな可能性があるのかということが出来るのかということ、もう少し詳しくお聞きできたらありがたいと思いましたが、視察の資料の最後のまとめがあるんですが、在籍生徒は、この見通しの高瀬、高瀬中学校の場合は18名という在籍生徒のうち、外国籍には2名、学齢期生徒2名は戦後の混乱期の影響で、義務教育未修了者が1名ということですので、対象以外の方が多いということは、どういう年代の方が、どういうニーズを持って通ってらっしゃるのかというようなことをもう少し知りたいなと思いましたが、まとまりませんが以上です。

(事務局)

ありがとうございました。高瀬中学校の生徒の年齢についてですが、すいませんそこまで私の方で確認できてなくて申し訳ありませんでした。学齢期2名に対して、結構年配の方が多かったということは私自身記憶しております。

(荒井座長)

補足ですが、高瀬中学校は元々「合わせ技」を想定して設置したわけではなく、冒頭は夜間中学という話からスタートし。その後、現在不登校のお子さんから問い合わせがあり、具体的なニーズが確認されたことから「合わせ技」に合流していったという背景があるとのこと。言い換えれば、制度設計時に、想定していなかった状況がその後生じる中でフレキシブルに対応していると理解できます。続きまして、上田市の峯村教育長お願いいたします。

(上田市 峯村教育長)

上田市の峯村です。今回のアンケートの結果を見させていただいて、今後、この夜間中学、県下どこで開設するかどうかは別としてもですね、様々な課題はあるわけですが、この自由記入欄のを読まさせていただきますと、当事者や支援者の方々の切実な思いが読み取れるわけであります。これは、この声を重く受け止めていかなければならないことを強く感じたんですが、県全体のものを受け止めていかなければならないと思っています。特に、いじめによって学校に行かれなくなってしまう。病気で学校に行かれない。それから、担任教師に馴染めなかった。これが不登校の理由であるし、それからその方は学びたいという切実な願いをもってご連絡、それから、外国籍の方で、中学卒業の資格がないと、お仕事に就くことができないというようなことも書かれていました。また、これとは逆に、ご自身が夜間中学の卒業後、現在長野県下の公立学校の教員で働いてらっしゃる方もおいでになって、こういうことをいろいろ考えながら、やはり、開設していく方向で検討しなければならないなっていると感じています。先ほど支援者の

アンケートが上田市は多い理由ですが、今日この会議にも参加されておりになります安藤先生、上田市の多文化共生推進協会という組織の方であります。この組織の皆さんが、このアンケートに関わっていただいたということが一つ先ほどのご質問のご回答になると思います。それで、考えることなんです、このアンケートはかなり信憑性が高いとは思いますが、ただ、例えば不登校について考えますと、これは長野県全体の大きな問題であって、各市町村、多いところもあるし、少ないところもあると思いますが、どこも抱えている問題だと思うんです。ところが、当事者が、不登校の方の声もあると思うんですが、行ってみたいと思う方がいない市町村がありますね。これはどういうことなのかなって考えました。ですからこの夜間中学開設は、小さな市町村では対応できないと踏んで、あまりアンケートに協力いただけなかったのか。疑ってるわけではないんですがそんな感想を持ちました。いずれにしても、長野・松本・上田はかなりの数がいます。それからまとめにありましたように南信地域はそれぞれの市町村で悩みを抱えている方おいでになります。こういう方の思いに応えていくことが、長野県の教育に携わる者の役目ではないかと思っております。以上です。

(荒井座長)

ありがとうございました。続きまして、飯田市の熊谷教育長、お願いいたします。

(飯田市熊谷教育長)

視察いただいた2校の様子を拝見すると規模的にもイメージができたり、給食だったりお弁当だったりということも様子がわかって大変ありがたかったなと思います。またもう一つのニーズの調査については、各郡市あるいは町村別のデータがあったので、そのニーズのありようが見えたことが、ありがたかったと思います。先ほどのデータにも表れていましたが、もっと地元の方が多いかと思っていたんですが、意外と上伊那の地域が多かったり、まばらになったりという状況が改めて理解はできました。そういう意味で、もし設置を検討したときにすね、どういうあり方がよいのかなということは非常に難しいなということも一方で感じたところでもあります。車で通うという方が多かったわけですが、南信で上伊那から飯田まで通うとなると1時間以上かかる状況にもなってくる。設置のあり方をどういう形がありうるのかということやそれをそれこそ今のようなオンラインというような形を一つの手法として考えていくべきことなのかっていうことも含めて、考えさせられる結果だったなというふうに思います。はい、とりあえず以上です。

(荒井座長)

ありがとうございました。続きまして支援者の皆様から発言いただきます。まず中信地区を拠点に活動されているはぐルッポの西森さんからお願いします。

(はぐルッポ 西森さん)

お世話になります。はぐルッポの西森と申します。今回のこの調査についてですが、全体的に、答えてくださった人数がとても少ないと感じていました。それについて、私は不登校の子供たちや保護者と関わっ

ていますので、どうしてなのかわかりにくかったところ、その夜間中学についてのやっぱり意味がよくわかっていないという方が多かったのと、この設問がとても答えにくかったという方がいました。それと不登校の子ですと、中学は1日も行ってなかったとしても、もう卒業してしまうということで、夜間中学ってのはどういうところなんだろうっていうのがあんまり理解できていないという方が多かったような気がします。支援者として考えているのは、そのニーズとして本当に多様な場であってほしいという願いが私としても大きいですし、他の方も大きいのではないかと思います。学び直しがとても多かったということですが、年齢期の子供でさえ、そういう学び直しをしたい、あるいは学校行ってなかった不登校だったそういう子供たちの学び直しっていうことが出てくるということは、不登校で学校行っていない子の学びが実際保障されていなかったんだっていうことが出てきているんじゃないかなと思って、これはとても大事なことですし、悲しい事であるなというふうに感じましたね。多くの親御さんに聞いたところ、長野県は本当に北から南まで本当に広いので、1校どこかにできたとしても通えないんじゃないかって。それだったらもっと近くにたくさんあった方が、そういう場所がたくさんあった方がいいんじゃないかという意見はいっぱいいただいています。その場合に、居場所としての機能も持たせるのか、あるいはこの夜間中学をもしやるとして、不登校の子を受け入れるとすると、不登校特例校に係る申請も必要だというようなことも聞いていますので、その辺をどうするのかっていうこともこれから考えなくちゃいけないことなのではないかなと思います。それから今、全国で公立の夜間中学以外にも自主夜間中学みたいなもの、とても増えてきているので、そういうところとの関連が、その他の場所ではどうしているのか、あるいは行政としてはどう考えるのかということも考えていかなければいけない問題と感じました。以上です。

(荒井座長)

ありがとうございました。確認させていただきますが。アンケートが答えにくいというのは、質問内容ではなく、そもそも夜間中学に対するイメージが固まっていない中で回答するのが難しいという意味でしょうか。

(はぐルッポ 西森さん)

はい。いろんなDVDも出てますので、そういうもので、もっと知ってもらう必要があったのかなって今となって思ってます。

(荒井座長)

わかりました。ご意見としては、色々なものを分けて作っていくより、ニーズを絞らず、横断的な形で空間を作っていくというニュアンスを大切にすべきであるということ、お間違いないでしょうか？

(はぐルッポ 西森さん)

はい、それでいいと思います。

(荒井座長)

わかりました。続きまして長岡さんお願いできますか。

(侍学園 長岡さん)

はい、おはようございます。このニーズ調査は、基本的にアンケートの内容も含めてですけども、ここへ通いたってという方々の思いがすごく顕在化したんじゃないかな。困っているわけなので、基本的にこういった形とか新しく生まれることに対してポジティブな感覚が生まれてくるのは、当然の結果であるんじゃないかという気はしています。同時にやっぱり夜間中学に入学して、そこで学び直しをしたりとか当事者のニーズではなくて、夜間中学入ったらどんなメリットがあって、その先の希望というものは何なのかというところをもう少しわかりやすく、当事者の人たちに届けていくということが準備の段階で必要だと思うんですね。その広報の戦略として、先ほど支援者の方々の話に出ましたけども、多分当事者の人たちに届けるとなると、基本的に相手は一人になるわけで、僕らの業界もそうですけども、その支援が必要な人たちに情報を届けるって1人1人に届けていたら、もうもう全然時間もマンパワーも全然足りないんですよ。ところが支援者の方々が、必要な方々を10人ないし20人抱えているわけで、その支援者の人たちが、ある意味この夜間中学のメリットや、それから設置される目的を完全に咀嚼して、自分の言葉で伝えるっていうことができるようになると、多分もっとニーズは増えていくだろうし、行きたいっていう気持ちは、もっともっと拾っていけるんじゃないかなっていう気がしているんです。夜間中学って何でやるのっていうのが外国籍の方々だったりとか不登校を経験した方だったりとかそれから登校経験して、その生産年齢っていうところに入っている方々に対するアプローチだと思うんですけども、最終的にはやっぱり個人の孤立を防いで社会に参加していくために必要なスキルと必要な知識教養っていうものを、持っていないといかんですよっていうところだと僕は思っているんです。外国籍の方々もそうかもしれませんし、それから不登校の経験しているキャリアの方々、今不登校の数も増えていきますけども、僕はもっとその先の年齢の、いや142万人を突破してるって言われてるひきこもりの年齢の方々、この方々をどうやって社会にもう一度、誘導できるかっていうところ、早く社会と繋ぐ必要性を持った多様なゲートをどんどん社会の中で作っていく必要があって、その一つが僕は夜間中学っていうソケットなんじゃないかなって思っています。ですから、今までの公立中学のところの夜間部で、学校の中にこういうものを設置しますっていうと、元々公教育に対するハレーションを持っている人たちにとってみると、すごくハードが高いので、何か違ったハードの部分ですけども、工夫は必要なんじゃないかなと思っております。

いろんなところを視察されているんですけども、侍学園も沖縄県の中に一つ沖縄校というのがありますが、その沖縄校の中にサンゴ礁スポーレかなり昔からやっている高等専修学校も併設してるんですけど、フリースクールもあるし、それから夜間中学もあるしっていう、サンゴ礁スポーレで調べていただくと本当に多種多様の居場所じゃないけど学び舎が設置されていて、最終的にはそこに関わることで、社会から孤立していた人たちが社会に繋がっていくっていう、ものすごくシンプルな目的の上で、ほぼほぼ寄付で運営されてるっていうところに、今度ちょっと多分県費とか国費が入ってくるんですけども、それでもう

少しニーズをどんどん増やしていけるんじゃないかっていうところがあって、なんかものすごく僕は参考になると思っています。長野県の中にも、元々既存している高等専修学校も、今、生徒を集めるのに大変になっているっていうところもある意味、夜間中学とコラボレーションしていくっていうのは、運営していく上では非常にやりやすいんじゃないかなと思っています。同時に夜間中学は、今いる学校の先生たちを兼務させていくっていうイメージよりも、どちらかっていうと、本当にボランティアだとか、それから、有償ボランティアの方わかりませんが、そういった人たちに対して協力したいっていう広く県民の人たちが、参加していく形が僕は一番理想だと思っています、学びの同行者って僕らは読んでいますが、そういう方々をどうやって組織化していくかっていうところで、運営に関してはやっぱり一番人件費がかさんでくると思いますので、もう少し長野県の一つのモデルとして、いろんな学びの同行者がこの夜間中学っていうところにも関わっていくっていうのが、現実的じゃないかなっていう気はしています。そうすると、どんなものが必要なのか、ものすごくシンプルになってくるんじゃないかなっていう気がしていて、最終的には労働者として納税者として、社会にしっかりと参加できていくその年齢層で、やっぱ働くというところから逸脱していかない県民をどうやって増やしていくのかっていうところが僕は大きなテーマになってくるんじゃないかと思いました。もうできるだけ早く設置されることを僕は望んでいるというか、いいなと思っています。以上です。

(荒井座長)

ありがとうございました。今後の展望も含めてコメントいただきました。続きまして栗林さんお願いします。

(中信多文化共生ネットワーク 栗林さん)

中信多文化共生ネットワークの栗林と申します。よろしく願いいたします。

私、中信地区のアンケート結果についてだけ、ちょっとお話ししたいと思うんですが、松本市は当事者も支援者も回答数が非常に多いんですが、安曇野市や塩尻市は外国由来の方たちのパーセンテージは松本市とさほど変わらないにもかかわらず、すごく回答者の人数が少ない肌感覚なんですけれども、実はその子供達の日本語支援をやっているんですが、ちょっと子供の日本語支援について積極的ではない市だったりするんですよね。だからこの市町村との温度差っていうものが、すごくこのアンケート結果に表れてしまったんじゃないかなというのを感じています。ですので、本当に設置となったときにもし中信地区に設置ってなった場合、松本市だけではなくて安曇野市、塩尻市のところにも、もっと本格的なニーズ調査っていうものをしていかなくちゃいけないんじゃないかなと思いました。また中学卒業後の出口についてまた後のニーズ調査分析と長野県の現状からっていうところでいろいろお話されるかと思いますが、そこでいくつか質問したいことがございます。後ほどよろしく願いいたします。以上です。ありがとうございます。

(荒井座長)

ありがとうございました。最後に安藤さんお願いいたします。

(上田市多文化共生推進協会 安藤さん)

上田市の他文化共生推進協会の安藤です。上田市が、ニーズ調査あるいは支援者調査の回答が多いということについてお話したいと思います。私どもがやっています協会の関係者に、このニーズ調査の回答をお願いしているようなメールを指示しまして、それから私の方からは、ちょっと夜間中学に関して、必要がすごくあるというふうに主張されていた方に、3人ぐらいにインタビューをいたしました。その結果まず数が増えたことは確かですけれども、私の予想以上にですね、夜間中学校を早急に設置してくださいという要望が、非常に強い要望が、たくさん出ました。そのことによって私の方も3名インタビューしたんですけれども、例えばですね、上田に住んで25年たつけど、ずっと夜間中学を作ってもらうように主張していたけれども、全然できなかつた。そして、そのことが全く欠片もなかつたということは、夜間中学の夜の字も出なかつたということなんですけれども、将来の夢として夜間中学とかを出て、高校にも行き大学にも行きたいんだけどって思っていたけども、将来の夢が絶望になったと。いうふうな話をしていました。そして、川口市にできたときに新幹線通ってでも、夜間中学に行きたいぐらいの気持ちだったってということも話していました。

当事者のコメントの中にも、その方のコメントありましたけれども、この方は、先月ですね県庁で中学卒業資格認定試験という、そういう試験があるそうですけれども、それに応募して、自分は受けてきたと。一番心配だった数学・英語・社会・理科は大丈夫だったんだけど、国語がなんと一番多分駄目だったんじゃないかと自分で言っていました。それは、文章を速く、長文を読むっていう力が自分はないんだと。だから、読む力、話すことはある程度できるし、書くことはある程度できるけど読んで、読解ですね、そういう力が全然ないんだっていうことを身にしみて感じたと言っていました。夜間中学校の1日も早くできて、そこに通って勉強したいと言っていました。それからもう1人の方は、上田に住んで20年経つけれども私は仕事がパート、派遣社員であって、全然日本人と同じような働きができない。もっとお金稼ぎたいっていう気持ちはもちろんあると思いますけど、日本人と同じような労働者になりたいと言っていました。そのためには、最低でも中学校を卒業して、高校へ行くと、何とかなるかな高校出ていけば何とかなるかなっていうこともあるし、だから絶対に夜間中学を早く作ってもらってそちらの方に通うんだという強い決意を私のところに話してくれました。そんなような例も含めてですね、数多くの外国籍の人、それから外国由来の人たちが、夜間中学校望んでいるということが昔からのニーズ調査でもわかりましたし、インタビューでもわかりました。それと加えて、私が今、日本語をこの事務所のところに土曜日通ってくる子供たちがいまして、日本語を教えていますけれども、外国由来の不登校の子がいます。不登校で外国由来、しかも中学2年生。今非常に基本的な漢字を練習しています。週に1回なので、どうしようもありません。数学も少し教えています。でも、彼女がなぜ1週間に1回きちんと来るのかっていうと、中学ぐらいは出ておきたいという、中学ぐらいの学力はつけたいという思い、本当は持っているんだと思います。学校にも行けない、あまりいけないし、先生にも会っていないし、勉強もおろそかにしているんだけど、漢字だけは、数学だけは、みたいなですね、後はある程度フィリピンのがあっけいけるんですけども、外国由来の子どもたちもそうですし、不登校の子もそうですし、そういう子供たちのために夜間中学ってあるんじゃない

ないかなと思います。上田に人数が多いから上田に作れば良いという短絡的なことではなくて、どこからでも通えるとか、先ほどちょっとお話ありましたけど、オンラインで授業ができるとか、オンラインの授業って非常に大切です。私達日本語を教えるのに少しオンラインを使ってみようかなとこの頃思いました。日本語教師の講師の先生のところから教わったことなんですけど、オンラインっていうのを考えていく必要があるかなというふうに思います。それからさっき長岡先生がおっしゃったけれども、支援者が情報を伝えられる人数っていうのはものすごく抱えていますよと。だから、1人1人に配る情報よりも、支援者が仲介してですね、配る情報の方がよっぽど早いし、大量に配れますよっていうお話がありましたけれども私その通りだと思います。そんなこともこれから考えていけば、ということを一ニーズ調査の結果で、決めておりました。以上です。

(荒井座長)

ありがとうございました。ニーズ調査の結果について事務局から報告いただきます。

(事務局)

お願いいたします。ここまで説明させていただきました、ニーズ調査分析と、長野県の現状から、一旦、整理をさせていただきます。さきほども、お話をさせていただきましたが、夜間中学入学対象となる方は、義務教育未修了者、未就学者等、一定数いることを説明させていただきました。そして、外国籍または、外国に由来する方の増加、義務教育形式卒業者の増加が予想されます。今回のニーズ調査により、多数のニーズが確認されたこと、また、これから対象者が増加傾向にあることを踏まえ、ニーズが確認された地域には、このニーズに応える夜間中学を早急に設置する必要があると考えています。とはいってもいきなり県内に何十校も作るというのは難しいことでもありますので、まずは、希望者が多い地域に設置し始めたらどうかという事があります。整理としては無理がありますから、まずは、東北信では、上田市周辺、中南信では、松本市周辺に設置することが望ましいのではないかと考えております。ご意見、よろしくをお願いします。

(荒井座長)

ありがとうございました。ニーズ調査の結果を踏まえて、具体的に市町村の名前を出しながら、提案させていただきました。これを受けてコメントをいただけたらと思います。

(栗林さん)

質問なんですけれども、中学校と今度高校入試にも関わってくる問題なんですけど、現在外国由来の子供たちで来日して3年以内の子であれば、公立高校の高校入試では特別配慮というものが受けられて、国語や社会が免除になったりというようなそういう特例があります。あと校長間同士の話し合いの中で入学が決まるという事もあるんです。もし仮にですね、中学校を形式卒業しました、例えば来日して2年くらいは中学校に通ったんですけれどもあまり学校に行かずに、形式卒業はしました。一応中学の卒業資格はそ

の子は持っています。でも学び直したいから、夜間中学に入ろうって言って3年かかって学び直して入った場合、5年過ぎてしまうんですね。そうして高校入試となると今度は、高校入試、今度は逆に特別配慮使えなくなってしまって、一般入試で受けなければいけなくなってしまふ、やっぱりその高校入試の制度にも関わってくると思うので、その辺のご検討いただきたいなと思っています。

それから夜間中学のニーズとして元不登校の子だった人ですとか外国由来が大きなニーズだと思うんですが、仮に外国由来のこの場合だと、日本語学校との学生の奪い合いが生じてしまうんじゃないかなというような恐れがあります。一応日本語学校っていうのは今後、専門学校や大学に入りたい人がメインとして在籍しているんですけども、聴講生として日本に在住している在留資格を持っている人が、聴講生として通うことができます。そうした場合別に5万円から7万円程度のお金を払って日本語学校に通うんです。でも夜間中学ができました、無料でどうもあそこでは日本語を教えてもらえるぞってなった場合、そこで学生の奪い合いみたいなものが起きてしまうんじゃないかなっていう、そういう懸念もあります。それからまた日本語を夜間中学で教えるっていう場合、学校設置科目としてちゃんと位置づけをする。そうしたときに、やはり日本語教師の資格がある人ではなければいけないんじゃないかなというようにも感じております。今、三つほど質問というか、ご意見させていただきました。以上です。

(荒井座長)

ありがとうございました。とても重要な課題を提起いただきました。1点目に関しては、入試制度の兼ね合いを確認させていただく必要があると思っています。2点目に関しても松本では日本語学校がこの間新たにできていますから、むしろ協働関係ができるのかを模索する必要があると思います。3点目に関しましても、荒川区の事例のように日本語を学ぶ時間の捉え方と関係してきます。では伊佐治教育長お願いいたします。

(松本市 伊佐治教育長)

松本市において、設置が望ましいのではないかとご提案をいただきました。私としても、こうした夜間中学という名称で設置をするかどうかは別として、学びの多様化学校も含めて、こうした苦しさを抱えてしっかり学ぶことができなかつた方々のために、学び直しあるいは、先ほど長岡さんからもお話があったんですけども、孤立を防ぐためのスキル、そこで学び直しをしていく。そういう多様な学びの場があるっていうのは松本市にとっても、魅力のある環境の一つになると思いますので、これは、ぜひ県の力を借りて、検討を進めていければいいなと私も個人的には思っております。ただ、そこで課題になってくるのが今栗林さんからもお話ありましたが、あの実際に日本語支援ということについては、あの義務の段階でNPOのお力を借りて、まずそこを押さえていこうということをやっているところです。だからその後の方たちをどこまで対象にしていくべきなのかというところは若干松本市の状況を考えると、そこにシフトするように、もう少し先ほどの不登校で、学び直しが必要だというお子さんたちに対して行っていくことが今求められているのではないかとこのことを問題意識としては考えております。それから、今回お1人お1人の先ほどのところに戻るんですが、このご意見、期待することについて個別の回答の中で、学び直しとい

うふうにあるんですけど、その人との関わりですとか、その教科も大事なんですけど、やっぱり人との関わりとか、学び直しではなかったんですが、このいろんな人と触れ合ったり、それから気軽に訪れることができる場所、繋がれる場所というようなキーワードもありますので、そこのところは、もしかすると大切な焦点になってくるのではないかというふうに私も感じておりました。できれば東京都内ではあるようなんですけども、実は松本市はそのちょっと、高校の段階でそのリスタートスクールのような、今通信制の高校に通うお子さんたちの状況を見ていると、今、不登校で夜間中学が必要かなと考えているところに、だぶってくる。そんなイメージを持っているんですけども、そういったことも考えてみました。例えば特別支援学校に行くという選択肢ではない選択肢を選んで、全日制の高校とか通信制に行ってるお子さんの中で、例えばその知的境界線でグレーゾーンにあるお子さんっていうのが、いらっしゃると思うんですが、そういう方が学び直しをして、そしてきちんと就職をしたっていうニーズっていう一応すごくあると思うんですね。皆さんからお聞きする話としても、そういったニーズが多いのではないかということで日頃から感じているものですから、この今の件で何かそういう多様な学びの場を作ってくというときに、そこでできるようなところがあるのならば、ぜひあの松本市としてはやってみたいなということを感じております。ただ、視察のところで見せていただいたのですが、夜間中学、あるいは学びの多様化学校となってきたときの教職員配置を受けられるセットっていうのもある意味行政のシステムとしてはカチッと縦割りで決まってるわけで、長岡さんはさっき、現実的にはボランティアとか住民参加でやってほしいんじゃないかっていうことをおっしゃっていただいているほどなと思ったんですが、そうは言っても、学校を作って、そして人的、きちんとその方たちに寄り添って支援できる人的配置をしてくこと、となると、やっぱり市のレベルでは、現実的などというお金の面があるのかとか人的支援を受けられるのかとか、そこが現実的には一番気になってくるころではございます。はい、以上です。

(荒井座長)

はい、ありがとうございます。では、上田市の峯村教育長をお願いします。

(上田市峯村教育長)

はい。いろいろご説明をいただいて、私も課題が多いのだけれどもからこそ、上田市として取り組まさせていただくのもいいなというふうに思いました。多様な学びの場を保障するということは、教育関係者にとってとても大事なことであります。そこに視点を置くと、上田市の名前を挙げていただいたということは、ある意味ありがたいなというふうに思っております。ただ課題がですね、山ほどあります。というのは、今県下で教員の数が足りない。その足りない中でどうやって夜間中学の職員を確保していくのか。それから公共交通機関のあるとこでないと車で通うというふうにおっしゃってるんですが、うまくいかない。上田だったら上田高校か、第二中学校っていうような具体的な名前も、アンケートの中に上がってきているわけですが、とにかく課題がですね、山ほどあります。それを乗り越えていながら何とかしていかなきゃいけないというふうに私は考えております。一つは困ることは、私この会議の委員として参加させていただいてるわけですが、上田市の教育長でもあります。伊佐治教育長さんも同じですね。委員で

ありながら教育長である。これは非常に悩ましいところでありまして、今後の進め方をどうするかという点について心配があります。というのは、まだこの話は、市長にも市長部局にも一切話が行っておりません。今日の会議の内容についてもそうであります。そういった中で、松本市さんと上田市の名前が挙がってきたという事を今後どうしようか、どうしていけばいいのかなってということが、ちょっと悩ましいところでもありますので、この点についても県の方針をお聞きしたいというふうに思います。以上です。

(荒井座長)

切実かつ深刻な課題です。次に、今年度の報告書のイメージを事務局から提案させていただきます。ここで事務局にお答えいただきたい点は、長野県ではこの間、いわゆる不登校特例校、あるいは学びの多様化学校という柱と、この夜間中学をそれぞれ別個に議論してきたわけですが、今皆さんのご意見を踏まえて、両者を包摂する形で場づくりを作っていく可能性はありうるのかという点です。

(事務局)

それではよろしく申し上げます。夜間中学設置に係る基本的な考え方、報告書についてであります。最初の会議でも、若干お話をさせていただきましたけども、報告書の中身であります。1 夜間中学の現状、2 番目として本県における夜間中学設置が必要である本県の現状、それから、ニーズ調査の結果から整理します。最後に3番として、長野県基本計画の概要ということで、ここまで1年間お話をさせていただいて、皆さんからご意見をいただきましたことをこちらに盛り込んで、最後整理しているというようなことで今考えているところです。よろしく申し上げます。

それから、先ほどいくつかご質問をいただきましたので、お答えになるかわかりませんが、話をさせていただきます。まず、学齢期の児童生徒のことについて、これまでのワーキンググループでの検討を踏まえてお話をさせていただきます。当初は、夜間中学の設置検討ということで、学齢期経過者の方々のニーズにどう応えるかということで話を進めてきました。しかし、ニーズの中間報告の段階で、学齢期のニーズが当事者からも、支援者からも認められていました。不登校の児童生徒につきましては、夜間中学にした場合は入学することができません。しかし希望者がいる場合には、文部科学省が整理しておりますが、夜間中学が中間教室やフリースクールの形で、在籍校と連携を取りながら、在籍校に籍を置いたまま受け入れることができるという事で整理をさせていただきました。

それから、全国的な状況でありますけども、既に設置している学校につきましては、学びの多様化学校を併設しているのは2校です。先ほど視察報告をさせていただきました香川県三豊市高瀬中学と京都市にある洛友中学。洛友中は、昼間の時間に特例校を、夜の時間に夜間中学を設置し、その間の時間を少し重ねるようなシステムの学校です。現在は2校ですが、今後、今まで皆様方にお話いただいたような、うまく両方を兼ね合わせることができないかというような検討しているところもあります。私が今把握しているところで、長崎の佐世保市では、学びの多様化学校を併設した夜間中学を作ると公表しております。それから三重県や大阪府では、学びの多様化学校に夜間中学の機能を付置するという形の新しい形のものです

けども、このようなことも検討されており、もう設置時期も決まっています。このような現状があります。以上であります。

(荒井座長)

ありがとうございました。まだ流動的な状況でありますし他市町村あるいは他県も手探り状態で検討しているというのが実情ではないかなと思いますが、現時点では、夜間中学に学びの多様化学校的な機能をつけるというアイディア、学びの多様化学校に夜間中学的な仕組みを付けるというアイディア。さらに、両者を併設して設置するアイディアなど、様々なバリエーションが出てきています。皆さんから本日もご意見いただいた内容を踏まえた場合、長野県としては、フレキシブルでインクルーシブな空間を目指し、そこに最大限、県がバックアップしていくという方向性が取ればよいのではないかと感じましたが、いかがでしょうか。では峯村教育長お願いします。

(上田市 峯村教育長)

先ほど心配事や悩み事などをたくさん申し上げて、ちょっと申し訳なかったなと思っているわけですが、この報告書まとめていく段階で、実は先ほど申し上げました、例えば教員をどうやって集めるのかという課題を洗い出しておく必要があると思います。それから、その教員が足りないなら、教員免許証がない方にも関わってもらう。それから多文化共生協議会の皆さんにもご協力いただくような、NPOの皆さんも含めた内容で、この運営ができないかということも考えていく必要があるというように思います。まとめについては、やはり今後こういうことをクリアしていかなければ先に進まないのではないかと思いますので、第3回には、直面している課題についてご協議いただきたいと思います。例えば、県立にするのか、市町村立にするのか、平成29年の報告書は、中学校の夜間学級は法令上原則として、市町村が設置するものとなっている文章があるんです。これについても、この委員会ではどう考えるかとか、そこまで、より具体的に踏み込んでいく必要があるのではないかなというふうに思います。よろしくお願いします。以上であります。

(荒井座長)

ありがとうございました。では長野市の丸山教育長お願いします。

(長野市 丸山教育長)

今の上田市の教育長さんのお話を伺ってまして、問題になるところ一番大きな課題ってのは、やっぱり設置主体だと思うんですね。それを外して議論できないということがあると思います。今、県立なのか、市町村立なのか、というようなこともありますし、全国的に見てもちょっと県立は今まだまだ数は少ないと思いますけども、全くそれが議論の俎上にのってないのか選択肢としてもないのかということが、先ほど松本市さんと上田市さんの設置ニーズの高いところの設置というのは、妥当性があると思うんですけども、やはり設置主体は、一番のネックになってるところだと思っています。その辺も含めて可能性もちよ

つと県立の可能性を残しつつ、報告書をまとめていただければというふうに思っています。ありがとうございました。

(荒井座長)

峯村教育長のご発言にありました点は、今後具体的に検討を進めていく上で必要不可欠な作業となると思います。もう一つ設置主体に関して、本年度に作成する報告書において設置主体がどこである、あるいは設置場所がここであるという点まで記載するかどうかは再度検討させていただきたいと思っています。なお、峯村教育長がおっしゃられたように、現時点でこの議論の内容について、首長部局等とコミュニケーションをとられていない自治体がほとんどかと思えますし、今回ご回答いただいた各市町村の中には全くという状況もあるかと思えます。それを踏まえて、市町村に対する意向調査を行っていきたいと思っています。さしあたり報告書の構成に関しては、このような方向で進めてさせていただくことでよろしいでしょうか。ではご了解いただいたということで進めさせていただきます。

では、意向調査について、事務局の方から説明をお願いいたします。

(事務局)

それではよろしく申し上げます。最後に設置に向けた意向調査のあり方については話をさせていただきます。昨年度までも市町村様には、夜間中学設置に係る意向調査をさせていただきました。ご協力ありがとうございます。今年度は設置に向けた検討状況なども含めて調査をさせていただこうと考えております。先ほどニーズ調査の結果から全くニーズが認められてない市町村もあるわけですが、香川県の三豊の市長さんのように、入学希望者が1人でもいるならば、設置を検討する。このようなご意向もあろうかと思えますので、全ての市町村に調査をするということです。よろしくをお願いいたします。

今後の見通しとあわせてご覧ください。まず今月ニーズ調査結果を県内全市町村に提供させていただきたいと思えます。その後、全市町村に夜間中学に関する設置意向調査のアンケートをさせていただきます。調査内容の詳細につきましては後ほど説明させていただきたいと思えます。この市町村からの回答を受けまして各市町村さんとお話をさせていただき、設置主体、設置場所も含めてお話をさせていただき、そんなふうに考えております。

ここで少し話題を変えてしまって申し訳ないのですが、今後の会議日程について、少しお願いがあります。第3回の設置検討会議についてですが、当初は3月15日、それから3月7日に変更をお願いしたいということで、お知らせをしたのですが、関係部局との調整等々ありますので、現状2月上旬に行わせていただくことを考えております。まずここで、ご了承いただければと思えます。詳細につきましてはの日程調整はこちらでまた改めてさせていただきたいと思えます。

続けていこう調査の内容について説明をさせていただきます。調査内容ですが、以下の5点に整理させていただきました。まず、今年度、文部科学省から発出された3つの、文書・資料等の情報共有の状況について、伺いたいと考えています。次に 夜間中学設置を検討する場合、共有が必要となると考えられる関係部局について、3つめとして、市町村教育委員会の設置に対する考え方について、(1) 県による二

一ズ調査結果を踏まえ設置を検討（２）市町村内のニーズを把握し設置を検討（３）設置の必要はない（理由： ）（４）その他（自由記述）４つめとして 設置を検討する場合のスケジュール、５つめとして 検討にあたり課題となることと考えています。ご意見、よろしく願いいたします。

（荒井座長）

一点質問ですが、市町村の設置に対する考え方を前提として捉えていただくわけではないということでしょうか。つまり、設置意向がなかったとしても、設置する場合の情報共有が必要となる関係部局について回答いただくということでしょうか。わかりました。ありがとうございました。ではこの内容について、ご意見いただけたらと思います。スケジュール感も含めてです。いかがでしょうか。伊佐治教育長お願いします。

（松本市 伊佐治教育長）

はい、正直に申し上げますと、このような意向調査が来たときに、松本市も含めて、今の段階でどういう夜間中学を作ってくのかってということが、曖昧とした形で、このことに前向きに答えられる自治体がどれだけいるんだろうかっていうふうに私としては思ってしまう。というのは、その後に参考資料ということで財政負担のことですか、国の補助のメニューってということがあるんですが、多分おそらくこれを見て、教育委員会の私も、松本市の教育長が財政当局とか市長と、こういう財政負担が必要になってくるんですけども、どうでしょうかっていうことを交渉した場合に、かなり必要だと思っていて、ニーズがあっても、今の状況でこの調査が来てしまうと、かなり困難だろうな、お金の用意をして作ってことは困難だから、ちょっと後ろ向きに回答しておこうというふうに思ってしまうところが正直多いのではないかと思っています。ですので、今日、とてもよい意見がいくつか特に支援者の方々から聞けたと思うんですけども、私としてお願いしたいのは、このように、このルールに敷かれた形で年度末に夜間中学設置基本計画っていう形にするのではなくて、せっかくならば学びの多様化学校と夜間中学を包括するような、その方向性というのが、長野県らしい形でできないのかってことをまず飲んでからでないと、不登校の支援に関しては、みんな本当に切実な思いがあると思いますので、そこはやっぱり夜間中学ってなった場合、これやろうとすることはどこまで可能なんだろうかっていうことになる。ですので、お願いしたいのは先ほど話題に出た夜間中学校をベースに作って学びの多様化学校、あるいは学びの多様化学校を作って夜間中学を併設したところ、そういう今、進行期のところでもいいんですけども、どういう検討されていて、それを作った場合にどういう財政負担で、人はどういう仕組みスキームで用意するんだろうかっていうことをもう少しこの場で議論をしてからでないと調査をただけになってしまう。おそらく今の段階でも松本市の方で回答しようとする、前向きな回答ができるとはちょっと自信がないんですね。おそらくこれが、例えば長野県でこういう検討がされて、松本市と上田市に必要だつてばあつと出てくると、当然議会への説明だとか、これどうしていくんですか、市長だけではなくて、そういうことも求められてくることは現実的には自治体の中ではありますよね。だから、本当に市町村が必要だと思っ

ているそのニーズに寄り添ったような検討をこの場で私はもう少ししていただけたらなというふうに思っております。以上です。

(荒井座長)

ありがとうございます。今の伊佐治教育長の御発言が全てという印象を持ちました。本日皆さんからご発言のあった登校特例校あるいは学びの多様化学校と夜間中学の「合わせ技」などについて情報共有させていただきながら進めていく点については、皆さんとしても共感的に受け止めていただいたということでしょうか。ありがとうございます。では事務局にお願いとなりますが、「合わせ技」に関して他県の情報も含めて提供いただき意向調査を実施することで進めていただきたいと思います。

(事務局)

学びの多様化学校は心の支援課が中心となって検討していますので、そちらと調整をしつつ、やっていければと、今のところは考えております。ニーズ調査の中身についても、またその辺を検討させていただいて提供させていただく予定であります。よろしく申し上げます。

(荒井座長)

ありがとうございます。残り時間わずかとなりましたが、いかがでしょうか。では次長から発言をお願いします。

(曾根原次長)

はい曾根原です。

はい、様々に議論ありがとうございました不登校特例校とか学びの多様化学校の会、私も出ている状況です。実際に教育長もご提案いただきやはり夜間中学の白黒をつけるとか、そういうことではなくて様々な可能性について県でも整理し、その可能性はどうかくらいの大きなアンケートで、首長部局と進めなければいけないレベルのものではなくて、そういうものを考えについて何うレベルの調査はさせていただいていくと、県としても、来年度以降どんな方向で進めていけばいいのかなって参考になりますので、そのレベルの調査を広くさせていただくというようなことで案内を進めていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。よろしくお願いたします。

(荒井座長)

ありがとうございます。今次長からご提案いただいたように財政云々とかですね首長部局との関係について当然意識されるかと思いますが、ご意見いただく形をお願いします。本日皆さんからいただきましたインクルーシブ・スクールのアイディア、社会的な繋がりを大事にしながら、色々な方を包摂していけるような学びの場をつくり、そこに伴走していく点を踏まえて、ぜひアンケートにご協力ください。

(事務局)

荒井座長、皆様方熱心なご協議、本当にありがとうございました。今、お話いただきましたけども、今後、市町村の意向調査につきましてはまたこちらで整理をして、調査をさせていただきたいと思えますよろしく願いいたします。次回の第3回夜間中学設置検討委員会ですけども、先ほどもお話をさせていただきましたが、日程を少し繰り上げて、行いたいと考えております。また後日調整をさせていただきますのでよろしく願いいたします。

以上をもちまして第2回、夜間中学設置検討会議を終了いたします。

ありがとうございました。